

第 53 回技術倫理協議会 議事録

1. 日 時 : 2014 年 7 月 22 日 (火) 14:30~17:00
2. 場 所 : 東京理科大学 森戸記念館 第 3 会議室
3. 出席者 (役職/氏名順、敬称略)

No.	役職	氏名	所属	出欠
1	議長	三木 哲也	電子情報通信学会	出
2	幹事	鶴原 稔也	電子情報通信学会	出
3		札野 順	日本工学教育協会	出
4	委員	狼 芳明	日本機械学会	出
5		皆川 勝	土木学会	出
6		林 克己	日本技術士会	出
7		剣持 庸一	日本工学教育協会	出
8		酒井 祐之	電気学会	出
9		宇野 研一	安全工学会	出
10		岡田 博	日本マシニングエンジニアリング学会	出
11		事業担当理事 (後任)	小川 徹	日本工学会 技術倫理協議会担当
12	アドバイザー	長島 昭	元議長	出
13	オブザーバー	川上 理英	日本工学教育協会	出
14	事務局	木暮 賢司	日本工学会 事務局	出

3. 議題

◆第一部 (14:30~15:30)

- ①第 52 回技術倫理協議会議事録(案)について (審議) (技倫資料 53-3)
- ②新任委員および委員交替について (審議) (技倫資料 53-4)
- ③今年度の公開シンポジウムについて (審議) (資料なし)
- ④「技術倫理に関する事例集」について (報告) (技倫資料 53-5)
- ⑤電気学会第 7 回技術者倫理研修会について (報告) (技倫資料 53-6)
- ⑥日本工学教育協会「技術者倫理教育における学習・教育目標」解説について (報告)
(技倫資料 53-7)
- ⑦各学協会活動報告 (報告) (技倫資料 53-8)
- ⑧次回協議会の日程について
- ⑨その他

◆第二部 (15:30~17:00)

大隅 典子先生ご講演

4. 配布資料 :

- 技倫資料 53-1 : 第 53 回技術倫理協議会 議題表
- 技倫資料 53-2 : 第 53 回技術倫理協議会 出欠表
- 技倫資料 53-3 : 第 52 回技術倫理協議会 議事録(案)
- 技倫資料 53-4 : 2014 年度技術倫理協議会委員名簿
- 技倫資料 53-5 : 「技術倫理に関する事例集」について (報告)
- 技倫資料 53-6 : 電気学会第 7 回技術者倫理研修会

技倫資料 53-7：日本工学教育協会「技術者倫理教育における学習・教育目標」解説について

技倫資料 53-8：第 53 回技術倫理協議会 会員活動報告

技倫資料 53-9：大隅 典子（おおすみ のりこ）先生プロフィール

6. 議 事

①前回議事録案の確認（技倫資料 53-3）

- ・原案通り了承。

②新任委員および委員交替について（技倫資料 53-4）

- ・日本機械学会の夏恒委員から狼芳明委員への交替が了承された。

③今年度の公開シンポジウムについて

- ・研究者倫理について再度取り上げた方が良い。
- ・「CITI Japan プロジェクト」は、医学系の 6 大学が組んで倫理教育教材を作り活用している。
- ・日本でも JST からの補助を受ける際には CITI Japan プログラム受講を必須としている。
- ・CITI Japan プログラムの基礎編は医学系だけでなく他分野でも活用できる。
- ・公開シンポジウムの講演者として次の方々が候補として考えられる。
 - ①CITI Japan プロジェクトから市川先生（信州大学）
 - ②学術会議・文科省・学振検討委員会から 1 名（学振中心の委員会なので学振から）
 - ③研究倫理の構造的問題への対応について松本日工教会長
 - ④現在日工教が取り組んでいるプロジェクトから松本会長か札幌先生
 - ⑤文科省ガイドラインパブコメから研究不正問題にどのように対応するかを話せる人
- ・異なる視点ということから科学技術史や科学技術社会論の専門家である中村征樹阪大准教授も候補である。
- ・公開シンポジウムの日程候補は 11/13（木）、17（月）、18（火）とし、建築会館の空き状況を鶴原幹事が建築会館事務局に問い合わせることとする。

④次回協議会の日程について

- ・次回協議会は、9 月 16 日（火）15:00～17:00 とする。

⑤会員学協会活動報告

	学協会名	報告概要
1	電気学会	<ul style="list-style-type: none">・2014 年 5 月 29 日技術士会で取り組みを紹介・6 月 23 日第 28 回倫理委員会開催。8 月 21 日開催倫理研修会の検討、2014 年 9 月発行予定の「技術者倫理事例集（第 2 集）」の初校完了、9 月中に発行予定。電気学会誌特集号企画の検討等。 【今後の予定】 <ul style="list-style-type: none">・2014 年 8 月 21 日、第 7 回技術者倫理研修会を予定・2014 年 9 月 30 日、倫理委員会において、渡部孝男氏（東北電力 常務）講演を予定・2015 年、学会誌特集企画「現代社会と理術者倫理」
2	電子情報通信学会	<ul style="list-style-type: none">・2014 年 7 月 14 日に第 2 回倫理委員会を開催・技術と社会・倫理（SITE）研究会を下記日程にて開催予定。 日時：2014 年 10 月 14 日（火） 会場：日本大学 駿河台キャンパス 理工学部 1 号館

		http://www.cst.nihon-u.ac.jp/campus/access.html テーマ：情報教育，技術倫理一般 http://www.ieice.org/~site/
3	日本化学会	<p>会長共同声明：「日本化学会会員行動規範」に則した行動を私たちが化学会会員は、化学が先導する持続社会の構築に向けて、自信と矜持と希望をもって地球規模の多くの課題解決に立ち向かい、社会からの大きな期待に応えるとともに、社会における化学者として責任ある行動をとるよう常に心がけることが重要と考えます。</p> <p>ご承知のように、日本化学会は、「日本化学会会員行動規範」と「日本化学会会員行動規範（補遺）・行動の指針」を制定しております。</p> <p>http://www.chemistry.or.jp/activity/doc/kodokihan.pdf</p> <p>これらは、人類、社会、職業、環境、教育に対して会員が負うべき責務を掲げるとともに、職場環境、知的財産、安全の確保、研究成果の発表、研究資金の使用と管理、研究記録の管理、研究プロジェクトの申請と審査、不正行為の防止と事後処理などの会員各位が会う機会が多いと思われるいくつかの問題に対して、研究者として、企業技術者として、教育者として、会員がとるべき行動指針を示したものです。</p> <p>会員各位におかれましては、今一度、お読みいただき、これに則して活動いただきますよう、会長引継の機に、改めてお願いする次第です。</p> <p>平成26年5月26日</p> <p style="text-align: right;">平成24-25年度会長 玉尾皓平 平成 26-27 年度会長 榊原定征</p>
4	日本機械学会	<ul style="list-style-type: none"> 今年9月7日に2014年度日本機械学会年次大会の市民フォーラム行事として「白熱教室：ロボット倫理・生命倫理を考える」を企画している。講師は 千葉大学の小林正弥教授。 日本機械学会誌2015年5月号に「機械系高等教育機関での技術者倫理教育」の 標題（仮題）で特集を組む。現在執筆者原稿作成中。
5	日本技術士会	<ul style="list-style-type: none"> 第6回技術者倫理シンポジウム（5/21）開催。85名参加。 テーマ：社会的責任（SR）と技術士の果たす役割 講師： 損保ジャパン CSR部 上席顧問 関正雄氏 経団連 政治社会本部長 斎藤仁氏 技術者倫理研究会 杉本泰治氏 パネリスト：コマツ 元専務 北川則道氏 日立製作所 元取締役 永田一良氏 第7回倫理委員会（6/19）を開催し、3小委員会の活動報告。倫理研修用教材（PPT）、第2回技術者倫理WS計画（11/9、福岡）、月刊「技術士」応用倫理シリーズ終了後の計画。技術者倫理連続セミナー（全8回）計画。

6	日本原子力学会	<p>1. 倫理規定を全面改定 原子力学会倫理規定は5月28日の第7回理事会の承認を得て、4年ぶりに改定された。この倫理規程は平成13年5月に制定されて以来、ほぼ2年ごとに部分改定を行ってきたが、今回、平成23年の東京電力福島第一原子力発電所の事故の反省を踏まえ、原点に立ち返って「倫理のあるべき姿」を徹底的に議論し全面改訂を行った。</p> <p>改訂の基本方針は、原子力安全の確保を最優先として行動するという理念を継続することは当然であるが、さらに、次の3点からより充実した倫理規程の策定を目指した。</p> <p>3つの視点とは、</p> <p>(1) 倫理の本質に立ち返り、正義と品格を有する質の高い倫理規程を目指す</p> <p>(2) 現実を踏まえた倫理規程（組織の中の個人）とする。</p> <p>(3) 実務への実装の重要性（スローガンだけで終わらせない）を示す。</p> <p>今後はこの倫理規定を骨格とし、教宣活動を推進する。</p> <p>2. 平成5月21日 第78回倫理委員会を開催。</p>
7	日本工学教育協会	<ul style="list-style-type: none"> ・「技術者倫理教育における学習・教育目標」海外予備調査には10カ国12名回答。CDIO国際会議（バルセロナ）にてポスター発表。本格調査に向け、設問・分析法など検討中。 ・モジュール3タイプ完成。モジュール0：「幸せ」な技術者を目指して、1：技術者倫理を学ぶ必要性を理解する、V：ビデオ教材を用いた事例分析能力の向上（3コマ） ・倫理綱領に沿った行動等を表彰する活動を委員会の活動に加える。現行表彰制度の活用も検討。
8	日本マリンエンジニアリング学会	<p>2014年度CPD「基礎コース」（機関係、電気系）講習会において、「技術者倫理」（1コマ）を講義する[8月28日（木）、岡山国際交流センター]</p>

(以上)